シ　ラ　バ　ス

（共通科目）

科　目　名	人文科学特論	担当教員:　渡慶次正則・坪井祐司・小嶋洋輔・屋良健一郎 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：m.tokeshi@meio-u.ac.jp（渡慶次） 研究室電話番号：0980-51-1235
科目名(英語)	Advanced Course of Humanity	

単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 213	火・金 15：00－17：00

1．授業の概要

言語知識や言語習得、発音とイデンティテイ、言語習得と年齢などの学会で注目を集める題目について話し合う。日本史の資料に基づいて、史実を導き出すために議論を行なう。日本近代文学を中心に研究方法や社会制度の変遷から小説を読み解く。欧米社会とは異なるコンテクストを持つ東南アジア地域の地域研究を検討し、議論を行なう。

2．到達目標

言語と文化、地域研究、日本近代文学、日本史の分野において学術的な論点を理解し、各分野の研究方法や資料の分析方法などの理解を通して、議論を行ない、最終成果物としてレポートを提出する。

3．授業の計画と内容

第１週　講義の説明、言語　渡慶次正則
第２週　言語と音声(Intelligibility Principle,子音、母音、リズム、対照音声学)渡慶次正則
第３週　言語と文（暗示的・明示的知識、宣言的・手続き知識、習得の困難さ）渡慶次正則
第４週　言語と社会（地域、民族、階級、ジェンダー、社会的立場と言語使用）渡慶次正則
第５週　語られる歴史、語られない歴史（国家による歴史書編纂をめぐって）屋良健一郎
第６週　人々の声、道端の声（石碑が伝える歴史）屋良健一郎
第７週　作られる歴史（偽文書とどう向き合うか）屋良健一郎
第８週　日本近代文学の「日本」について(森鷗外「普請中」を用いて)小嶋洋輔
第９週　植民地と文学（牛島春子「祝という男」中島敦「マリヤン」を用いて）小嶋洋輔
第１０週　マイノリティの文学（「女性」「在日朝鮮人」「アイヌ」「沖縄」を描く文学作品を用いて）小嶋洋輔
第１１週　地域研究とはなにか（自然環境と「地域」のとらえ方、事例としての東南アジア）坪井祐司
第１２週　地域からみた歴史（世界史と地域、海域世界としての東南アジア史）坪井祐司
第１３週　地域と現代社会（グローバル化と地域、東南アジアにおける政治、経済、社会）坪井祐司
第１４週　言語習得と年齢　渡慶次正則
第１５週　総括、課題提出(2,500 字程度)渡慶次正則

4．テキスト・参考文献

関連する参考図書や学術論文、資料を講師が適宜提供する

5．準備学習

事前に課題を適宜紹介する。

6．成績評価の方法

発表内容と授業への貢献度　　５０点

レポート（2,500 字程度、4 人の講師の分野から分野を 1 つ選ぶ）　　５０点

合　計　　１００点

7．履修の条件

特になし。

8．その他

特になし

科　目　名	政策科学特論			担　当　教　員：高嶺　司 メールアドレス：t.takamine@okinawa-ct.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226	
科目名(英語)	Policy Science				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 503	月：4 限目、火：2 限目

1．授業の概要

本特論は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国（日本、米国、カナダ、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN、南太平洋島嶼国）の国際関係を政策科学的に考察する。より具体的には、アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係を、政治外交、経済協力、開発援助、地域機構、安全保障、民主化、社会変動、感染症対策といった多角的な視点より分析し、21 世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と機能、さらには、その限界を科学する。

2．到達目標

アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係とそれに伴う諸課題を、政策科学の視点から考察し理解する能力を養うことを目的とする。

3．授業の計画と内容

第 1 週　はじめに－概念としてのアジア太平洋
第 2 週　アジア太平洋地域の国際関係
第 3 週　アジア太平洋経済協力(APEC)と経済統合
第 4 週　アセアン地域フォーラム(ARF)と安全保障
第 5 週　日本のアジア太平洋外交
第 6 週　中国の政治外交と東アジア共同体構想
第 7 週　ロシアの政治外交と北方領土問題
第 8 週　韓国の政治外交と朝鮮半島問題
第 9 週　北朝鮮の核開発問題と６カ国協議
第１０週　台湾の政治外交と中台関係
第１１週　オーストラリアの政治外交
第１２週　東南アジア諸国連合(ASEAN)と地域主義
第１３週　ベトナムとミャンマーの社会構造変動と民主化
第１４週　ニュージーランドと太平洋諸島フォーラム(PIF)
第１５週　まとめ

4．テキスト

【テキスト】

特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。

【参考文献】

下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力-その新しい潮流』有斐閣選書　2012 年
高橋哲哉・山影進編『人間の安全保障』東京大学出版会　2010 年
大庭三枝著『アジア太平洋地域形成への道程』ミネルヴァ書房　2004 年
川口浩・渡辺昭夫編『太平洋国家オーストラリア』　東京大学出版会　1988 年
J. Baylis, S. Smith and P. Owens (eds.), *The Globalization of World Politics*, 2008.
S. Smith, A. Hadfield, T. Dunne (eds.), *Foreign policy: Theories, Actors, Cases,* 2008.

5．準備学習

特になし。

6．成績評価の方法

課題レポート：50 点　　ディスカッション：50 点　　合計：100 点

7．履修の条件

特になし。

8．その他

特になし。

科　目　名	社会心理学特論			担当教員：木村　堅一 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：k.kimura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1205	
科目名(英語)	Social Psychology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 310	月曜日　３時限目 火曜日　３時限目

１．授業の概要

本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。

社会心理学を学ぶ前提として、1）科学とは何か、2）経験とは何か、3）経験と行動の科学に挑戦する理由とは何か、を理解することで社会心理学を学ぶ理由を明確化し全ての受講生が社会心理学の研究の営みの中に身を置いて考えることを教育目標とする。

２．到達目標

科学全般、特に社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。

自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。

３．授業の計画と内容

第１回　コース紹介
第２回　科学とは何か（第１章）
第３回　科学的方法の紹介（第２章）
第４回　仮説を発展させる（第３章）
第５回　数的表現による行動の記述（第５章）
第６回　推測統計（第６章）
第７回　仮説を検討する（第７章）
第８回　統制（第８章）
第９回　実験の論理を応用する（第９章）
第１０回　実験の論理を拡張する（第１０章）
第１１回　実験の生態学（第１１章）
第１２回　社会心理学研究論文の批判的読解の実践（事例１）
第１３回　社会心理学研究論文の批判的読解の実践（事例２）
第１４回　社会心理学研究論文の批判的読解の実践（事例３）
第１５回　社会心理学研究論文の批判的読解の実践（事例４）
講義のまとめ

４．テキスト・参考文献

W. J. レイ（著）　岡田　圭二（訳）2013　改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論　北大路書房
高根正昭　1979　創造の方法学（講談社現代新書 553）　講談社
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）　2001　心理学研究法入門　東京大学出版会

５．準備学習

指定した範囲について、テキスト・参考文献を通読し、重要な用語については定義を書きだしておくこと
予め指定された担当範囲についてレジメを作成すること
学習内容について、自らの修士論文に関連した具体例を用意しておくこと

６．成績評価方法

・講義への取り組み（50 点）：講義での発表と資料作成，質疑応答、積極的な参加
・課題レポートの提出（50 点）：　１つの章を要約、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定・報告
・合計（100 点）

７．履修の条件

特になし

８．その他

特になし

科　目　名	環境科学特論			担当教員：田代　豊 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：tashiro@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1086	
科目名(英語)	Advanced Environmental Science				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 207	火　10:30-11:30・木　16:30-17:30　（メール等でアポイントを取ること）

１．授業の概要

地球環境における様々な問題は、世界の政治や経済の動向と複雑に関連し、各地の社会に様々な影響を与えている。本科目ではこうした地球環境に関する主要な話題について、受講生による発表と相互のディスカッションによって理解を深めるものである。

２．到達目標

地球環境問題を自然科学および社会科学の面から理解し、環境を科学的に見ることを理解する。

３．授業の計画と内容

第 1 週　科目の概要の説明
第 2 週　プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について①
第 3 週　プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について②
第 4 週　プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について③
第 5 週　プラスチックごみ問題をめぐる国際的な動向について④
第 6 週　中間まとめ
第 7 週　地球温暖化問題について①
第 8 週　地球温暖化問題について②
第 9 週　地球温暖化問題について③
第１０週　地球温暖化問題について④
第１１週　中間まとめ
第１２週　水資源問題をめぐる国際的な動向について①
第１３週　水資源問題をめぐる国際的な動向について②
第１４週　水資源問題をめぐる国際的な動向について③
第１５週　総合討論

４．参考文献

『地球白書 2006-2007』ワールドウォッチ研究所編、ワールドウォッチジャパン発行
『三峡ダムと日本』鷲見一夫著、築地書館発行
『京都議定書をめぐる国際交渉』浜中裕徳編、慶応義塾大学出版会発行
『「レジ袋」の環境経済政策』舟木賢徳著、リサイクル文化社発行

５．準備学習

配布資料の次回授業該当部分を精読しておくこと。地球環境に関する最近の話題を議論のテーマに取り入れるので、新聞などにより基本的な情報を常時得るようにしておくこと。

６．成績評価の方法

授業への取り組み　　５０点
レポート　　５０点
合　計　　１００点

７．履修の条件

自然科学の基本的な素養があり、過去に環境科学に関連する講義を履修したことがあること。

８．その他

特になし。

科　目　名	健康科学特論			担当教員：小川　寿美子 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：sumiko@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1148	
科目名(英語)	Advanced Course of Health Science				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	4	研 526	研究室前に掲示

１．授業の概要

人々の健康を守る人間社会の営みを、医療者や専門家に任せておけばよいという時代はもう終わった。自分のからだと心の主人公はやはり自分であり、よき医療者を得たり、医療者との良い関係を保ったり、保健医療の恩恵に預かったり、環境や社会をより健康的に変えていったりするのも、保健医療の利用者・消費者である一般の人々の責任と行動に負うところが益々大きくなってきている。

本講義では、大学院の共通科目として、単に知識を提供したり開設を加えたりするだけでなく、各章で取り上げている問題を受講者が自分の健康問題として考え行動してもらうことを重視する。更に、講義の一部は英語で「健康科学」を考える機会を設けることにより、他言語での学びを通じ、大学院の教養レベルの基礎的知識を多角的に習得できるようにする。

２．到達目標

本特論を通じて、受講生は、これらの学びの過程をそれぞれポートフォーリオ（本科目を学ぶ過程で得た知識、スキル、成果の達成過程を示すファイル）にまとめる作業を通じて、体系的な知識の構築手法を学ぶ。

３．授業の計画と内容

第１週　健康とは何か
第２週　現代社会の心の病
第３週　ストレスと対処
第４週　食生活と健康
第５週　フィットネスとウエイトコントロール
第６週　タバコとアルコールと薬物
第７週　愛しあう関係
第８週　成熟とエイジング
第９週　死と死にゆくこと
第１０週　慢性疾患と事故とその予防
第１１週　感染症の再興とその予防
第１２週　医療における行動と選択
第１３週　ヘルスケアシステムとマンパワー
第１４週　環境と健康
第１５週　試験

４．テキスト・参考文献

【テキスト】

「生き方としての健康科学」山崎喜比古・朝倉隆司 編，有信堂，2011 年（第 5 版）2,800 円

【参考文献】

「Life and health care」Yoko Watanabe，Sanshusha，2002 年
「CLIL 英語で学ぶ健康科学-CLIL Health Sciences」笹島茂，他，三修社，2013 年
「人々を健康にするための戦略」蛯名玲子，ライフ出版社 2013 年

５．準備学習

各週に出される課題、宿題をすること

６．成績評価の方法

授業での活動状況　５０点
課題レポート　　５０点
合計　　１００点

７．履修の条件

グローバルヘルス特論を並行受講することが望ましい。

８．その他

特になし。

大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）

科目名	学術研究方法特論			担当教員：	国際文化研究科長：嘉納 英明（代表者）
				メールアドレス：	
科目名（英語）	Academic Research Method			研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期			

１．授業の概要

修士課程における初期段階の研究テーマの設定、参考文献の収集、研究倫理、基本的な研究方法である質的研究方法と量的研究方法、基本的な学術論文作成方法等について学習し、研究デザインを完成させる。

２．到達目標

（１）問題性があり、焦点化された、学術的に重要性のある研究テーマを設定することができる。
（２）参考文献の収集方法、文献管理、論文への引用方法について学ぶ。
（３）質的研究方法と量的研究方法の基礎について学び、自らの研究に活用する。

３．授業計画と内容

第１週　4/10 月　修士課程の説明、修士研究の意義（担当：研究科長、領域主任）
第２週　4/17 月　研究（学際的視点を含む）とは何か、研究生活（担当：研究科長）
第３週　4/24 月　学問の自由と研究倫理（担当：大城渡 教授）
第４週　5/1 月　研究テーマと研究の目的（担当：宮平栄治教授）
第５週　5/8 月　調査研究等の方法（担当：坪井祐司 上級准教授）
第６週　5/15 月　参考文献の検索と管理①（担当：図書館長）
第７週　5/22 月　参考文献の検索と管理②（担当：図書館長）
第８週　5/29 月　質的研究方法①（担当：小川寿美子 教授）
第９週　6/5 月　質的研究方法②（担当：小川寿美子 教授）
第 10 週　6/12 月　量的研究方法①（担当：田代豊 教授）
第 11 週　6/19 月　量的研究方法②（担当：田代豊 教授）
第 12 週　6/26 月　ミックスメソッドとサンプリング（無作為法と特定目的法）（担当：渡慶次正則 教授）
第 13 週　7/3 月　修士論文の作成方法（APA, MLA 他）と論文の一般的な形（担当：研究科長、指導教員）
第 14 週　7/10 月　発表（担当：研究科長、指導教員）
第 15 週　7/24 月　発表（担当：研究科長、指導教員）

４．テキスト・参考文献

【テキスト】適宜紹介
【参考文献】適宜紹介

５．準備学習

リサーチ・ペーパーと発表は事前に準備をして授業に参加する。

６．成績評価方法

授業レポート：５０点
発　　表：２５点
研究デザイン（テーマ、理由、目的、調査方法）：２５点
合　　計：１００点

７．履修の条件

なし

８．その他

・論文作成の書式については、基本的に指導教員の指示に従う（但し、統一した形式を用いる事）
・各講師の課す授業レポートを提出すること。